

2020
中川真依の
Go!Go!
東京オリパラ
東京オリンピック・
パラリンピック開催まで
あと **10** カ月



▲昨年のこまつ子どもスポーツ大学

こまつ子どもスポーツ大学

東京オリンピック・パラリンピックの日本代表選手が続々と決定してきました。1人でも多くの小松市ゆかりの選手たちが出場できるように、皆さんで応援していきましょう。

今月も前回に引き続き、幼児期の運動に関する話をします。アスリートの多くは、幼児期からの運動経験があります。医科学的にも、神経系統が著しく発達しやすい幼児期に、その80~90%が形成されると言われています。身体を上手に使えると、より大きく、力強く運動できるようになります。

皆さんは「こまつ子どもスポーツ大学」をご存知ですか。小松市が5年前から開催している、ゴールデンエイジといわれるジュニア期に「走る・跳ぶ・投げる」といったスポーツの基本を専門の指導者から学ぶスポーツ教室です。昨年の参加者の中には、20m走の記録が1秒近く早くなった子や立ち幅跳びの記録が約30cmも伸びた子がいたそうです。発育・発達は個人で異なりますが、幼児期の子供たちには、様々な運動を経験させてほしいです。



こまつ子どもスポーツ大学の詳細は、23ページの「くらしのかんづめ」をご覧ください。

問い合わせ スポーツ育成課 ☎24・8139

2019夏 つーラルこまつ 花のコンクール大賞

問い合わせ フローラルこまつ実施本部事務局(緑花公園センター内) ☎24・8102

誰もが鑑賞できる花壇やプランターなどの花装飾を対象にしたコンクールです。

真夏の日差しの下で元気な花を咲かせた受賞花壇を紹介します。



大賞

エイキKK ツバキの会(木場町)

ボリュームのあるイポメアとテラスライムの明るい黄緑色が印象的で、他の花との組み合わせも素晴らしく目を引きまします。花壇があることで、田園風景の中に花で彩られた島が浮かんでいるように見え、景観への演出効果としても抜群でした。土づくりでコンポストをうまく利用していたことも高く評価されました。



花水樹賞

金子弘司さん(鷺川町)

遊泉寺銅山跡の公園に植えたシャガの群生は圧巻の光景で、毎年たくさんの方が訪れています。長年の地道な活動が評価されました。



田谷特別賞

木場潟再生プロジェクト

2004年から続く活動の一つで、木場潟における貴重な水生植物(ヒシ・アサザ・ガガブタなどの在来種)などの保護育成活動が評価されました。



イルミネーション賞

沖町町内会

毎回新しいテーマに挑戦し、今回は五輪を表現しました。夜は花壇のデザインにイルミネーションが加わり、見る人を楽しませています。



各部門賞

団体の部

◆一般

【金賞】下粟津町花の会



【銀賞】花みずき会(白嶺町)、糸町町内会

【銅賞】小松市農業協同組合、西軽海町一丁目町内会、道の駅こまつ木場潟

◆児童・生徒

【金賞】安宅小学校



【銀賞】第一小学校、中海小学校

【銅賞】犬丸小学校

◆幼児

【銀賞】あたか認定こども園

【銅賞】白嶺幼稚園

個人の部(敬称略)

【銀賞】元弘栄(木場町)、伊藤瑤子(矢沢町)

【銅賞】榎本好美(上本折町)、石原丈太郎(村松町)

※団体の部、個人の部の奨励賞、入選、努力賞は市ホームページで紹介しています。



~国際交流員ジェシカのこまつ新発見~

「恵まれた国」に生まれて 困るブラジル人



私が知る限り、ブラジルでは地震が発生しません。大きい波はありますが津波は全くありません。台風はさらっと海を通ることはありますが被害はほとんどありません。竜巻もありません。火山もないし、大雪も降りません。災害といたら大雨ぐらいです。まさしく「恵まれた国」と言ってもおかしくはないですね。

災害がほとんど起こらないので、避難の準備はしなくても良いです。それに、災害が起きた時にはどうするかといった知識を身に着けようとも全然思っていないです。ブラジルではそれが事実です。

一方、日本は災害が多い国だと世界的に知られています。来日したブラジル人もそれを知っていると私は思います。それでも日本に住んでいるブラジル人の家族は、避難の準備を全くしていないと思います。なぜかという



▲先月、外国人向けの防災キャンプで避難体験をしました。

と、ブラジルではそんな必要がないので、その必要性に気付いていないのです。いつでもどこでも災害は起きるから準備しないといけないという心配も全くしません。慣れていませんから。

そんな時こそ慣れてる日本人の手助けが必要になります。周りに外国人の家族が住んでいたら、避難の準備はできているかと聞いてあげたり、避難所を教えてあげたりしましょう。できるだけみんなで力を合わせて、一人でも多くの命を守りましょう。災害に備えて、外国人も困らないまちになるといいですね。

問い合わせ 観光文化課 ☎24・8039